

【教育活動実践報告】

## 留学生サポート参加の中国語会話授業の構築 —長崎外国語大学における中国語学習の支援の一環として—

呉 青 青

### Building Chinese Conversation Classes with Support from International Students:

A Case of Chinese Language Learning Support at Nagasaki University of  
Foreign Studies

WU Qingqing

#### Abstract

This report presents the building of Chinese conversation classes with the participation of Chinese-speaking international students as support at Nagasaki University of Foreign Studies. Specifically, it reports the activities conducted in the elementary and intermediate Chinese conversation classes, as well as the results of student surveys. The survey revealed a high level of satisfaction with the Chinese conversation classes involving the participation of international students as support. However, one of the challenges faced by the instructors in building these Chinese conversation classes was determining the appropriate communication activities to engage in during the classes. While some of the communication activities were successful, others were not. Therefore, future plans involve continuing practical research to address this challenge.

キーワード：中国語会話授業、留学生によるサポート参加、授業設計

#### 1. はじめに

外国語教育現場に母語話者を招き、学習者に実際場面で目標言語を使用させることは、新鮮なアプローチではない。しかしながら、筆者の管見の限りで、中国語を母語とする留学生（以下、「留学生」と略す）を中国語授業に招き授業を行った実践報告や研究は、あまり見当たらない。そのため、留学生を招いてもどのような授業を行うかについては、参考になる文献がほとんどなく、教員の試行錯誤に依存している。このような背景から、本稿では長崎外国語大学で実践した留学生のサポート参加の中国

語会話授業を報告し、教員が直面した課題や改善点を共有することで、中国語教育に従事する者にとっての参考になることを目指している。

本稿は、以下の構成になっている。まず、第2節では、長崎外国語大学で留学生を中国語授業に招き、日本語を母語とする学生（以下は「学生」と略す）の中国語学習をサポートするという実践を行ったきっかけを述べる。次に、第3節と第4節で実践した初級中国語の会話授業（一年生向け）と初中級中国語の会話授業（二年生向け）で行った活動をそれぞれ報告した上で、学生のアンケート結果を述べる。最後に第5節では、教員がこの実践において直面した課題、反省点及び改善点を提示する。

## 2. 本実践のきっかけ

新型コロナ時代において、留学生は日本人の学生との交流を強く望んでいたということが観察されている。また、中国語の授業を見学を訪れる留学生も多く見受けられている。一方、学生側からは、発音の個別指導や中国語圏への留学ができないため、より実践的な中国語の使用機会の希望などの要望が多く寄せられた。このような状況を受け、留学生に中国語の会話授業のTA（Teaching Assistant）としてボランティアを募集した。その結果、21名の応募者が集まった。

実践者自身は、長崎外国語大学に着任する前に、週に4コマのカリキュラムの中国語授業で月に1回の留学生のサポート参加の授業を行った経験があるが、頻度を増やすことでより効果的授業が実現できるのではないかと考えた。そこで、本実践を始めることにした。

## 3. 実践した会話授業の報告

### 3.1. 初級レベルの会話授業

実践した初級レベルの会話授業は、週に2コマ、合計30コマで構成されていた。受講者は、既に中国語の基礎を学んでおり、多くの学生は中国語検定試験の準4級に合格したレベルであった。授業の内容は、中国語の構文の口頭練習に加え、関連するリスニング練習と会話文の音読練習を行った。留学生のサポート参加があるため、学生が会話文を音読する際の発音指導以外に、表1にまとめた活動も行った。基本的には、3～4名の学生が1名の留学生とグループ活動形式で行っており、授業の全体の様子は、図1に示している。



図1 留学生が参加した授業の様子の例

表 1 初級レベルの会話授業において留学生サポート参加で行った授業活動！

時間	目標	活動
第7回	<ul style="list-style-type: none"> <li>留学生との関係性を作る</li> <li>今後の授業活動のウォーミングアップ</li> </ul>	中国語でそれぞれ好きな料理に加え、その料理にどんな食材が入っているかを話し合うこと（約15分間）
第8回	<ul style="list-style-type: none"> <li>（時間）+ 主語 + 跟（人物）+ 在（場所）+ 動詞 + 目的語（出来事）という構文の練習</li> </ul>	教員は「時間」「人物」「場所」「出来事」といった要素をくじ形式で準備した。学生はそれぞれくじを引き、口頭で文を産出する。「時間」と「人物」は中国語の漢字のみで表される。「場所」と「出来事」はイラストのみで示され、既に学習した単語もあれば、未学習の単語も含まれる。
第10回	<ul style="list-style-type: none"> <li>文末の「了」の練習</li> <li>アスペクトの「了」と量詞の練習</li> <li>「是……的」という構文の練習</li> </ul>	第8回の活動と同じく、学生は教員が用意したくじを引き、口頭で文を産出する。
第11回	<ul style="list-style-type: none"> <li>方位詞の練習</li> <li>「电脑在桌子上边。」「铅笔的左边是杯子。」のような文に示されているように、中国語で物の位置を言う練習。</li> </ul>	教員が物の位置を表現するために適するイラスト（図2を参照）を用意した。イラストには、未学習の単語が中国語の漢字とピンインで表示されている。留学生は、物の位置に関する質問を行い、学生はイラストを見て回答する。
第13回	<ul style="list-style-type: none"> <li>比較の文型・A比B + 形容詞</li> <li>A比B + 形容詞 + 比較した結果</li> </ul>	学生はイラスト（図3を参照）を見ながら指定されている構文を用い、物の比較を表現する。
第15回	<ul style="list-style-type: none"> <li>動詞 + 着（状態を表す）</li> <li>「穿着」「戴着」「拿着」を中心</li> <li>「放着」「摆着」「贴着」「挂着」を中心</li> </ul>	<p>活動1：1回目では、教員が用意したイラスト（図4を参照）を見ながら、「穿着」「戴着」「拿着」等の表現を中心に、イラストに描かれた人物の状態を表現する。2回目では、留学生がイラストに描かれた人物の状態に関する質問を行い、学生が回答する。</p> <p>活動2：1回目では、教員が用意したイラストを見ながら、「放着」「摆着」「贴着」「挂着」等の表現を中心に、イラストに描かれた物の位置の状態を言う。2回目では、留学生が質問し、学生が回答する。</p>

<p>第16回</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様態補語</li> <li>・ 比較表現 + 様態補語</li> </ul>	<p>活動1：教員が用意したイラストを見ながら、与えられた形容詞を用い、口頭で様態補語の文を作る。                  活動2：教員が用意したイラストを見ながら、口頭で比較表現と様態補語を組み合わせた文を作る。</p>
<p>第19回</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 結果補語</li> <li>・ 動詞 + 「过」：経験を言う構文</li> </ul>	<p>活動1：学生はイラストで構成されているワークシートを用い、結果補語に関する文の穴を埋めた後、留学生と会話練習をする。                  活動2：教員が用意したイラスト（図5を参照）を使ってあることを経験したかどうかを尋ねたり答えたりする。</p>
<p>第21回</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「把」構文</li> <li>・ 「主語 + 把 + 目的語 + 動詞 + 在 / 到 / 成 / 给 + その他の成分」</li> </ul>	<p>活動1：教員が用意したイラスト（図6を参照）を見ながら、与えられた動詞と「把」構文を使い、口頭でイラストを説明する。                  活動2：留学生はイラストに描かれたことまたは描かれていないことに関する質問をし、学生はイラストを見ながら回答する。</p>
<p>第22回</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 方向補語</li> </ul>	<p>教員が用意したイラストを見ながら、与えられた動詞を使って、口頭で方向補語の文を作る。</p>
<p>第25回</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 受身、使役</li> </ul>	<p>教員が用意したイラストを見ながら、与えられた単語を使い、口頭で受身の文と使役の文を作る。</p>

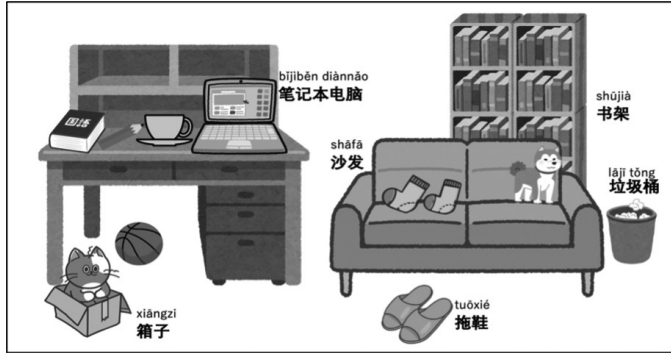


図2 物の位置を表現する練習用のイラストの例

old	new	

図3 物の比較を表現する練習用のワークシートの例

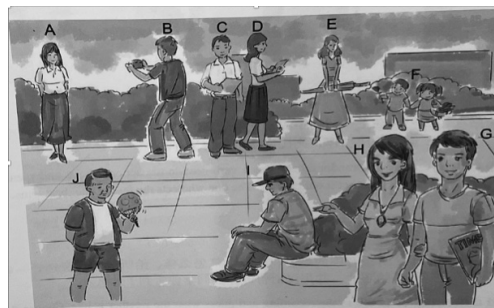


図4 人の状態を言う練習のイラストの例 毛 (2012 : 183) より

	dǎ ping pāng qiú 打乒乓球 <input type="checkbox"/> Yes. <input type="checkbox"/> No.		huá xuě 滑雪 <input type="checkbox"/> Yes. <input type="checkbox"/> No.
	qí mǎ 骑马 <input type="checkbox"/> Yes. <input type="checkbox"/> No.		bēi jīng kǎo yā 吃北京烤鸭 <input type="checkbox"/> Yes. <input type="checkbox"/> No.

図5 動詞+「过」構文を言う練習のイラストの例















						
A同学	B同学	C同学	D同学	E同学	F同学	G同学
						
chuī fēng jī 吹风机	shàn zi 扇子	yào shi 钥匙	bèi zi 被子	yào 药	wǎng xiàn 网线	yǔ sǎn 雨伞

図6 「把」構文を言う練習のイラストの例<sup>2</sup>

### 3.2 初中級レベルの会話授業

実践した初中級レベルの会話授業は、週に1コマ、合計15コマで構成されていた。8名の受講者は、既に1年半の中国語学習経験があり、全員が中国語検定試験4級に合格したレベル以上であるが、レベルにはばらつきがあった。中には1年目に中国語検定試験の3級に合格した受講生もいれば、受講時点ではまだ中国語検定試験の3級に合格していない受講生もいた。留学生が参加した授業の内容は、1分間スピーチとリスニング活動の後、1名の留学生と2名の学生がグループを組み、教員が用意した特定のトピックについて話し合うものであった。具体的には、留学生が教員の用意する特定のトピックに関する質問をし、学生が回答する形であった。質問が終わった後に、学生が留学生と同じ質問を投げかけた。単語や表現に困った場合は、留学生がサポートする役割もあった。具体的なトピックと質問リストは、表2にまとめている。第5回から第8回までは、約10分間の自由交流が行われた。その後、発表する形式で学生の意見を共有した。第9回から第13回までは、約30分の留学生とのグループ活動が設けられ、教員がいくつかの質問を投げかけ学生が回答する形式で行った。

表2 初中級会話授業で行った活動

時間	トピック & 質問リスト
第5回	「上课的日子，除了上课以外还会做些什么？不上课的日子又会做些什么？」 というトピックに基づいた自由交流
第6回	「喜欢的日本零食；或者是你觉得还可以，但留学生们可以尝一尝的日本零食」 というトピックに基づいた自由交流
第7回	如果现在给你一千万日元（不考虑日元贬值） ① 你想去哪里旅游？为什么？ ② 你想买些什么？为什么？ ③ 除了上面的两项以外，你还想拿这些钱做些什么？
第8回	我们一起聊一聊自己的优点和缺点。你觉得你的优点是什么，缺点是什么？我们 再聊一下你喜欢自己什么地方，不喜欢自己什么地方（可以是外表也可以是性格）， 为什么？
第9回	谈食物和烹饪 ① 早餐你喜欢吃什么？ ② 一天三餐（早餐、午餐、晚餐），你最喜欢哪一餐？为什么？ ③ 你喜欢在家吃还是去外面吃？为什么？ ④ 你会做菜吗？你会做什么菜？或者你擅长做什么菜？ ⑤ 你擅长做的菜需要什么食材？ ⑥ 请简单地说一下怎么做这道菜吗？ ⑦ 你觉得学（会）做菜重要吗？为什么？ ⑧ 你觉得在家吃（在家做菜）有什么好处？ ⑨ 你认识的人中谁做菜好吃？他/她擅长做什么菜？
第10回	谈娱乐活动 ① 你周末喜欢做什么？为什么喜欢做这个？ ② 上周末你做什么了？感觉如何？ ③ 你最喜欢什么运动？为什么？ ④ 你喜欢逛街吗？为什么？ ⑤ 娱乐活动中你最不喜欢做什么？为什么？
第11回	谈生活习惯与健康 ① 你每天的作息规律吗？每天几点起床几点睡觉？按时吃饭吗？ ② 晚上常常熬夜吗？（你是夜猫子吗？） ③ 你每天怎么来学校？在路上要花多长时间？ ④ 来学校/从学校回家的路上你常常做些什么？ ⑤ 你常常做运动吗？你为什么常常做运动？ （To 常常做运动的人）你一般都做些什么运动？ ⑥ 你觉得你缺乏运动吗？ 如果你觉得自己缺乏运动，那你想要改善一下吗？为什么？

(続く)

	<p>⑦ 请你介绍一下你的日常作息。</p> <p>⑧ 你的日常作息中，有没有什么习惯是你想改变的？ 如果有，为什么想要改变？ 如果没有，你觉得你的日常作息是否健康合理？</p>
第12回	<p>谈节假日</p> <p>① 在日本的传统节日中，你最喜欢哪个节日？为什么？</p> <p>② 在日本一年的最后一天叫“大晦日”。在“大晦日”，你们家一般怎么庆祝？ 都吃些什么？</p> <p>③ 你一般怎么度过新年的第一天？</p> <p>④ 你知道哪些中国的传统节日？你知道中国人怎么庆祝那个节日吗？</p> <p>⑤ 你知道在中国，过春节人们一般做什么吗？</p> <p>⑥ 从欧美传过来的节日中，你比较喜欢哪个节日？为什么？ (万圣节、圣诞节、感恩节、情人节等等)</p>
第13回	<p>谈自己的家乡</p> <p>① 你的老家在哪儿？它是一个什么样的地方？</p> <p>② 你老家的气候怎么样？</p> <p>③ 你最喜欢你家乡的什么？为什么？</p> <p>④ 你最不喜欢你家乡的什么？为什么？</p> <p>⑤ 在你老家，有什么特产？那是什么样的东西？</p> <p>⑥ 在你老家，有没有什么比较有名/比较热闹的地方？那是什么样的地方？</p> <p>⑦ 在你老家，有没有什么比较特别的庆祝活动？可不可以介绍一下这个活动？</p>

#### 4. 学生の満足度に関するアンケート調査

学期末に、学生に留学生のサポート参加に対する満足度のアンケートを行った。初級レベルのクラスでは23つのアンケート、初中級のクラスでは8つのアンケートを回収した。

まず、「留学生が会話授業に参加したことは、あなたの中国語学習に役立ったと思いますか」という設問に対して、それぞれの結果は以下の通りである。紙幅の関係で、割合が示されているグラフを省略する。初級クラスでは、「非常に役立ったと思う」と回答した人は20名で87%を占め、「まあまあ役立ったと思う」と回答した人は3名で13%を占めている。初中級クラスでは、「非常に役立ったと思う」と回答した人は6名で75%を占め、「まあまあ役立ったと思う」と回答した人は2名で25%を占めている。どちらのクラスも「普通」「あまり役立たなかった」「まったく役立たなかった」と回答した人はいなかった。

次に、「どの部分に役立ったかを選択してください（複数選択可）」という設問に対する結果は、それぞれ図7と図8に示している。



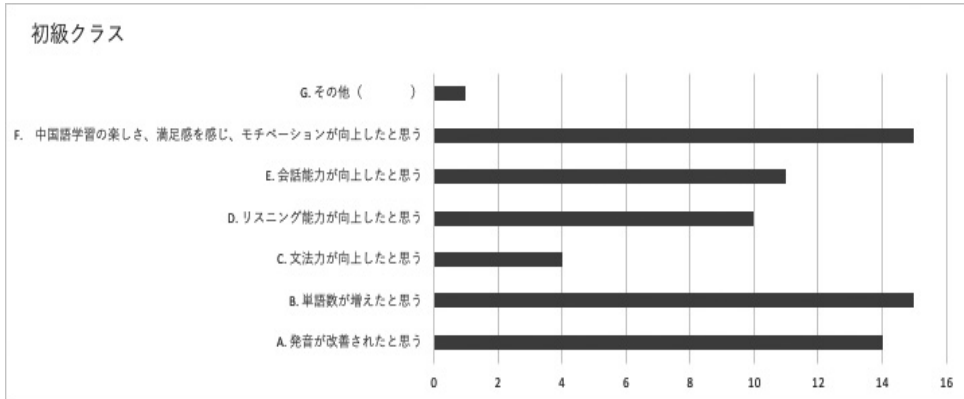


図7 「どの部分に役立ったか」に対する初級クラスの回答結果

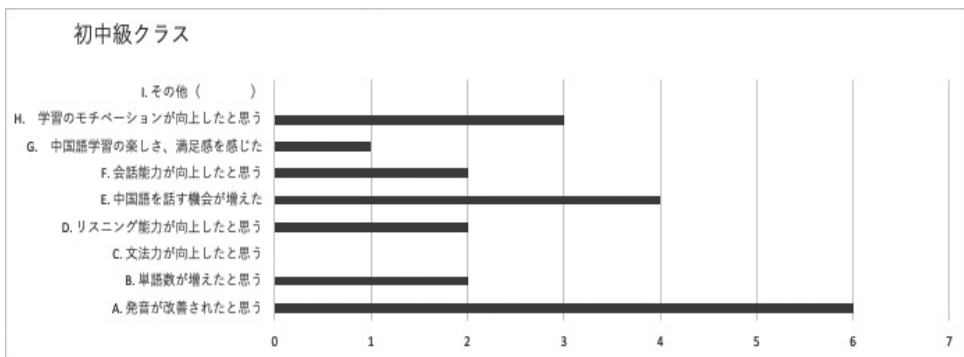


図8 「どの部分に役立ったか」に対する初中級クラスの回答結果

この2つの設問への回答から、学生は留学生のサポート参加に対して高い満足度を示していることが読み取れる。また、「留学生が来て良かったなと思うところを自由に書いてください」という設問に対し、初級クラスから以下のようなコメントを受け取っている。

- 発音・リスニング・会話などの中国語学習に関するもの：
 

「正しい発音を聞くことができた。」「発音をすぐ直してくれた。」「先生以外の中国語の会話、発音に触れることが出来た。」「先生に聞きづらい発音とかもすぐ聞ける」「分からないところをすぐに聞ける。」「留学生の発音を間近で聞いたことにより、リスニング能力が大きく成長と感じた」「会話の練習が増えたところ」「日常会話の練習が役に立ったこと」「わからないことがあったら気軽にすぐ聞けたら、習った単語や文法が簡単に理解できた。」「関わる機会が増えて、中国語をより話すことができた。」

- 楽しみながら学べた：

「授業を楽しみながら勉強することができた」「楽しく中国語を学べました」「会話の授業で楽しみながら発音や会話能力が向上したと思う」「普段留学生と交流することがなかったので、交流もできて楽しかった。」「普段の授業よりも沢山の会話する場面が多くて楽しかったです。」「留学生と会話できるのは楽しかった。」「ネイティブの中国語をたくさん聞くことができるとてもおもしろかったです。」

- 文化に触れたこと：

「毎回違う留学生と同じグループになれたので、いろいろな故郷について尋ねたり、SNSを交換できて、一番文化に触れることができる機会になった」「雑談などで中国のことをよく知れた。」「中国や中国語にもっと興味を持つことができた」「留学生がしてくれた母校の説明では、留学したいという気持ちが強くなり、場所や学校についても知ることができて良かったです。」「留学生の発表してくれた故郷や学校について聞いたので、留学に行く時の参考になった。」

- 友達作り・学習のモチベーション向上に関するもの：

「留学生の友達ができたとこころ」「みんなフレンドリーで仲良くしてくれてよかった」「お互いに言語を教え合うことができ、仲も深まった。

「留学生が話す日本語を聞くことにより、頑張っている留学生を見て、自分の励みになった」「中国語学習に対するモチベーションが上がった」「留学生のお友達が増えた。」「新しい中国人・台湾人の友達を作ることができたという点が、留学生が来て良かったと思うところです」

また、初中級クラスからも上記の初級クラスと同様に、発音や文化及び友達作りの面からコメントを受け取っている。

## 5. 教員が直面した課題・反省点・改善点

前節では、留学生のサポート参加の授業に関する調査の結果を述べている。学生たちは高い満足度を示しているが、教員としては、学生の満足度だけでなく、ほかの要素を考慮しながら自身が構築した授業を評価する必要がある。本節では、教員が留学生のサポート参加の授業を構築してきた中で直面した課題、反省点及び改善点について述べる。

まず、直面した課題は主に3つあった。第2節で既に述べているように、本実践は予め計画したものではなく、学期が始まってから留学生と学生たちのニーズに応えるために、実施することになった。教壇での経験が浅いこともあり、以下のことに直面した。

1. 授業中にどのような活動を行うかという点：これは、教員が直面した最大の課題とも言える。特に、参考にできる先行研究は少なく、教員の試行錯誤に頼る必要

があった。毎回の授業の設計には、かなりのプレッシャーを感じた。成功した活動もあったが、失敗した活動もあった。

2. 教員個人からの依頼による留学生の授業参加：留学生の参加は、ボランティアであり、教員個人からの依頼であった。授業の直前に急に授業に参加できないというような連絡を受けたことがある。そのため、教員の計画通りに実施可能かどうかの保証はなかった。
3. 参加した留学生の日本語能力のレベルのばらつき：留学生の日本語能力のレベルによって、グループごとの進行上に影響が出た。日本語能力が高い留学生とのグループでは、より順調に進めることができた。

教員の反省点は、主に授業の設計に関する部分である。これは、「授業中にどのような活動を行うか」という教員が直面した最大の課題にも関わっている。

初修外国語の初級会話クラスでは、構文の口頭練習が中心であり、構文を産出する際の「正確さ」を求めていたが、「会話」としての実践性が不足していたことに気付いた。どの場面でのその構文を使うかを提示することも重要である。

初中級クラスでは、応用的な活動が多く、学生の自らの消化時間が少ないという点が教員の反省点である。実際に、一対一の期末会話試験の後、学生へのインタビューで留学生の参加頻度がやや高いとの声もあった。教員も、学生の自らの学習の時間を奪ってしまったのではないかと気付いた。また、教員が設計した会話トピックと質問リストは、実用性が高いものであったが、難易度がやや高いという点も反省点である。

本稿を執筆する際に、長崎外国語大学では留学生がサポート役として授業に参加することは制度化されている。中国語学習のサポートの一環として、今後の留学生サポートの授業を実施する際に、以下の点に留意しながら授業を改善していく。

1. 初級レベルのクラスでは、構文の応用練習の活動を加える必要がある。しかし、どのような応用練習を行うか、実践的な研究課題として検討されるべきである。
2. 初中級レベルのクラスでは、質問リストの難易度を下げることに加え、関連するリスニングやモデル会話も予習・復習の材料として提供することを検討する。
3. 留学生のサポート参加の授業は2週間または3週間に1回の頻度で行うことが適切であると考えられる。

## 注

- 1 多くの活動は、教員が用意したイラストを見ながら構文を言う練習を中心に行われた。紙幅の関係で、一部のイラストの例を割愛する。また、イラストは、教員がイラストや(<https://www.irasutoya.com/>)のものを使って作成したものである。
- 2 毛 (2012: 149) のイラストを参考に教員が作成したものである。

**参考文献**

毛悦（編）2012『新目標汉语口语课本2』北京语言大学出版社

メールアドレス [wu@tc.nagasaki-gaigo.ac.jp](mailto:wu@tc.nagasaki-gaigo.ac.jp)

謝辞：本実践に協力してくれた留学生たちに深く感謝を申し上げます。